





始まりすぐに機材トラブルがありましたが、音声が出なかった6年生はすぐに5年生教室へ移動し一緒に聞くなど、そのあたり子どもたちも慣れたものでした。

また、別の教室をのぞいてみると、先生が子どもたちに自分のノートを取り出させて、紹介されるノートと比較しながら見てみようという声をかけていました。

昨年、内容をノートに取りながら話を聞いているクラスがあり、子どもたちにどうしてノートにまとめているのと尋ねると、先生が

不在なので、後からどんな話だったか教えてほしいと言われていたとのことでした。先生が教室にきた時には、「大事なことを書いていると2ページになりました。」などの子どもたちの声から前向きに取り組んでいた様子が伺えました。

先生がいるときだけでなく、いなくても意欲的に学ぶ子になってほしいと、どの先生も願っています。そのためには、こうした子どもたちに「任せる」経験と、なぜするのか、その活動の意義を子どもと共有するとともに、前後の丁寧な指導の積み重ねが『自分の力を伸ばしたいと願う子どもを育てるのだ』と感じています。

